MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

News Letter 中部大学民族資料博物館

vol. 16
January 2020

作庭家、岡田憲久氏と語る集い

荒屋鋪　透（中部大学民族資料博物館長、人文学部教授）

洞雲亭における座談会の様子

作庭家の岡田憲久（おかだ・のりひさ）氏と語る集いを2019年6月4日に行った。出席者は、中部大学工学部建築学科教授の稲川直樹（イタリア建築史・近代建築史）、同じく応用生物学部環境生物科学科准教授の上野薫（土壌物理学・野生生物学）、民族資料博物館客員教授の前田富士男（芸術学・近代美術史学）と稿者（西洋近代美術史、日本近代美術史）であり、いずれも民族資料博物館の運営委員である。

この集いは2019年度の民族資料博物館・秋季企画展『学校法人 中部大学創立80周年記念 中部大学UNIVERSITY GARDENと岡田憲久』展（2019年10月15日～2020年1月14日）の事前催事、あるいは準備作業として企画し、出席者は各々、同展の展覧会図録に論文を執筆した。また同展の協力者である、景観設計室タブラ・ラサから田井洋子氏、主催者側から中部大学学術支援部部長の稲ヶ部正幸（民族資料博物館）と中部大学民族資料博物館学芸員の原田千夏子（日本美術史）が同席し、進行は稿者が行った。

この集いを展覧会の準備作業と書いたが、出席者の稲川直樹教授は同展図録に論文「中部大学のキャンパスと建築―大西良三と高橋骸一の仕事―」、上野薫准教授は「しなやかに変わる、春日井キャンパスの自然」、また前田富士男客員教授は「大学のなかの庭から、庭のなかの大学へ―知の境界を問う『庭園』にむけて―」を各々寄稿した。

これらの論文を読むと、中部大学の春日井キャンパスの3つの庭を作庭した岡田憲久氏の仕事を端緒に、中部大学はキャンパスの庭や建築をいかにつくってきたのか、その基本理念。そこに集う人間と自然はどのように共生しているのか、自然環境の側面。さらに一体、人間社会にとり「庭」とは……。などという大きな課題、テーマが展覧会の先にみえてくるようであった。集いの参加者たちはまず、中部大学附属三浦記念図書館の応接室で歓談、続いて岡田氏の作庭した2号館中庭「みなもの庭」、25号館中庭「花鏡（はなかがみ）の庭」、そして工法庵（くほうあん）・洞雲亭（どううんてい）の庭を、岡田氏自身の解説を聞きながら廻ったのである。

岡田氏は本展図録で、「中部大学のキャンパスは多くの自然を残しキャンパス全体が庭である。その中の3つの小さな空間を、更なる庭として、私なりに庭とは何かという問いを巧み、問うてみた」（「中部大学の三つの庭 それぞれの時間」より）と記す。

中部大学民族資料博物館が本展を構想したのは2017年のことである。本年2019年の開催まで、岡田憲久氏はかつて作庭した大学の庭の修繕・改修作業を、本学管財部と共に実施された。本展を機に大学の庭がまた新たによみがえったのである。

索引（いん・さく）

◇巻頭
作庭家、岡田憲久氏と語る集い　1
中部大学民族資料博物館長・人文学部教授　荒屋鋪 透

2019春季・秋季行事報告

◇企画展（成果発表展）
3月 4月 特別講座（古典絵画）2018年度受講生発表展　2
「平安時代後期から鎌倉時代の古典絵画模写《伴大納言絵巻》、《信貴山縁起絵巻》、《平治物語絵巻》と作品」
中部大学民族資料博物館　原田 千夏子

◇実技講座
4月 2019年度 特別講座（古典絵画）開講 ― 金屏風の小下図制作　2
日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員　下川 辰彦

◇企画展
9月 伊藤平左エ門のカメラコレクション展「クラシックカメラで撮った写真」　3
中部大学名誉教授・平左エ門カメラ同好会 世話人　内藤 和彦

◇秋季企画展
学校法人中部大学創立80周年記念
10月「中部大学 UNIVERSITY GARDEN と岡田憲久」展　4
中部大学民族資料博物館　原田 千夏子

◇秋季講演
10月 2019秋季企画展関連講演「中部大学　3つの庭に込めた思い」　5
中部大学民族資料博物館　原田 千夏子

◇研修見学
10月 JICA「産業技術教育」研修員の民族資料博物館見学について　5
中部大学現代教育学部教授　宮川 秀俊

◇授業見学
11月 CAAC 講義「旅と文学」 ― 中部大学民族資料博物館への「たび」―　6
CAAC 講義「旅と文学」非常勤講師　岡本 美和子

◇教育普及活動
授業見学にむけた体験実習室の活用 ― 素材研究テーマ　日本の国宝絵画の模写作品紹介　7
中部大学民族資料博物館　原田 千夏子

◇トピック
学校法人中部大学創立80周年記念「中部大学キャンパス・アートマップ」、2019年秋、完成　8

2020 行事案内　8

3月 4月

企画展（成果発表展）

特別講座（古典絵画）2018年度 受講生制作作品発表展示

― 平安時代後期から鎌倉時代の古典絵画模写《伴大納言絵巻》、《信貴山縁起絵巻》、《平治物語絵巻》と作品

展示案内チラシ

‖ 期間 ‖ 2019年3月22日（金）～4月17日（水）
‖ 会場 ‖ 中部大学民族資料博物館　多目的室、
附属三浦記念図書館1階エントランス

主　　催：中部大学民族資料博物館
企　　画：下川 辰彦、原田 千夏子

入場者数：619人

日本画の実技を通じて伝統文化をより深く描き手の観点から理解する試みとして、大学博物館より地域へ向けた生涯学習プログラムを毎年提案している。指導講師は、国宝絵画の模写制作の他、長年にわたり古画の技法や素材を研究し、現代作品に活かす研究過程を重視している。本講座においても、古画の優品の模写制作を課題制作に取り入れ、前年度の《鳥獣戯画巻》（国宝）に続き、2018年度は、《伴大納言絵巻》（国宝）、《信貴山縁起絵巻》（国宝）、《平治物語絵巻》（国宝）を課題にとりあげた。線描や彩色の表現の特徴を加味しながら、指導講師が受講生の技量に応じて制作場面を振り分け、各自が一年間にわたり取り組んできた。

絵巻物は、座観における人間の視覚に対応する小空間であるため、描かれた人物の顔や所作は、一本の墨の線の表現にさえも物語を雄弁に語る役割となる。模写は作業工程のなかで、実際に筆を手に握り、古の絵師の筆さばきを、緊張感をもってなぞっていくことで、描き手が込めた表現の意図、その時代の息吹を感じ取ることができる。これこそが、実技を通じて学ぶ目的の一つである。また、模写においては、上げ写しや臨写など、写し取り方は様々であるが、最終的に画面全体における形の取り方や彩色の調和を総合的に絵画作品としてまとめあげるところに力量が求められる。指導講師は、受講生全員の資質や取り組みの進行を見極めながら、それぞれの作品を完成の領域にまで到達するよう引導していった。こうした古画制作を実践によって学ぶことができる機会は、一般的には稀有に等しい点で、多くの受講生から、次なる課題を求める意欲的な声が多く寄せられた。（原田）

講評会の様子

展示風景

4月

実技講座

2019年度 特別講座（古典絵画）開講

― 金屏風の小下図制作

特別講座の教室風景

‖ 期間 ‖ 2019年4月17日（水）～2020年1月15日（水）
（通年・連続26回）水曜・午後
‖ 場所 ‖ 中部大学10号館106Ｊゼミ室

受講者数：16人（定員制・通年）
指導講師：下川 辰彦　（日本美術院特待・中部大学民族資料博物館 外部専門委員）
担当：原田 千夏子（中部大学民族資料博物館）

今年度の課題制作は、小下図作成用の小型のサイズだが、金屏風を左右2枚で一対の作品を制作することにした。屏風絵は、江戸時代の琳派をはじめ、日本人の生活空間のなかで独特に発展してきた表現形式の一つであるが、金地に彩色することは非常に難しく、また一筆ごとの運びも失敗ができないことからも特に集中して取り組む必要があ

特別講座の教室風景

り、通常の和紙に描く場合とまた違った工夫が求められることを実技制作を通じて実感することになるだろう。また2枚一組の画面構成を考える点も、古画をよく観察しながら、屏風という独特の空間表現を生かすモチーフをどのように配置するか等、様々な難関を解決していく工程があると想定される。受講生のそれぞれの持ち味をどのように発揮していく一年となるか、楽しみである。また、自由制作となる創作作品についても、各自が課題制作と並行して行っていく挑戦となる。それらの全ての過程と並走しながら、できるだけ個々の主体性と個性を活かした作品制作となるよう、対峙していきたいと思っている。　（下川）

9月

企画展

伊藤平左エ門のカメラコレクション展「クラシックカメラで撮った写真」

‖ 期間 ‖ 2019年9月10日（火）～14日（土）
‖ 会場 ‖ 中部大学附属三浦記念図書館１階 エントランスホール

主　催：中部大学平左エ門カメラ同好会
　　中部大学民族資料博物館
企画代表：内藤 和彦（中部大学名誉教授・平左エ門カメラ同好会　世話人）

入場者数：約100人

展示案内チラシ

標記展を記載どおり開催した。総入場者数は、展示場所がエントランスホールのため、実数のカウントはできなかった。概数で、百名ほどだったが、12日は中部大学フェアに参画したこともあって、その日だけで三十名を超える入場があった。

今回は、副題のとおり、伊藤先生のライカを中心としたクラシックカメラで撮影し、同好会会員が自ら現像・引き延ばしを行い、展示する事とした。フィルムの調達や各種薬品、DPE機器材の入手はネット購入のおかげで何とかなったものの、本学からは「暗室」がなくなっていた。長久手の「貸暗室」を利用し、実現できたが、もう一つ問題があった。我々のDPE技術や勘を取り戻すのが最大の難関だった。しかし、我々が今まで行ってきた「カメラの一部動態保存」の実績を何とか示すことが出来た。こうした保存事例は全国的に見ても希少である。これは、私と大西良三前学園長との約束ごとでもあった。展示出来た写真の出来栄えはともかく、我々は十分満足している。そして、つくづく「動態保存」の難しさを実感させられた。

そもそも、平左エ門先生の集めたカメラを貰い受けたのは、大西先生だった。空間づくりを生業としている者の一人として私は、大西先生を高く評価している。著名な建築家や作庭家やデザイナー達の力は借りているものの本学のキャンパスは大西先生の「作品」だと思っている。建築計画と都市計画の狭間にあるこの手のスケールの作品事例は少なく、ほとんど誰も手掛けていない。「作品」と呼べるものは皆無に近い。建物、広場、道路の形態・配置はおろか植栽や庭、茶室、彫刻、絵画に至るまで配慮が行き届いている。一見、無関係あるいは気まぐれにも見える民族資料、レコード、茶器、カメラの収集もある。私には、先生がキャンパスデザインの一環として本学の担うべき「文化（芸術）の創造と継承」のイメージを模索していたように思われてならない。先生の「文化」に対する畏敬に近い思いと感性をこれらから汲み取ることができる。「カメラの動態保存」もその一つである。何かにつけ、ゆとりのなくなった昨今の大学だからこそ大切にしていきたいと思う。　（内藤）

１階エントランスホール　展示風景

10月

秋季企画展

学校法人中部大学創立80周年記念

「中部大学 UNIVERSITY GARDENと岡田憲久」展

第一展示室：「作庭家、岡田憲久による中部大学3つの庭」

第二展示室：「中部大学　春日井キャンパスのはじまりと今」

‖ 期間 ‖ 2019年10月15日（火）～2020年1月14日（火）
‖ 会場 ‖ 中部大学民族資料博物館　シルクロード室、多目的室

主　催：中部大学民族資料博物館
協　力：景観設計室タブラ・ラサ
企　画：荒屋鋪 透、前田 富士男、原田 千夏子

入場者数：1,402人

本学は、文理7学部を一つのキャンパスに要し、建築群と緑化整備を総合的な計画のなかで進められてきたことで、自然と建物が共生する美しいキャンパス空間が創られてきた。このことは、国内外の大学を見渡しても稀な事例として、本学が誇るべき歴史である。今年、学校法人中部大学創立80周年記念を迎えることから、キャンパス内に作られている主な庭園を企画展テーマに取り上げることで、整備計画のこれまでの経緯を再認識する機会としたいと考えた。また、キャンパス空間は作り上げることだけでなく、「今」を生き続けている生の空間である。本来あるべき姿を維持管理していくという新たな課題と常に向き合う使命が課せられている。そのために、私たちは、あらためて身近に過ごしているこのキャンパスの成り立ちの起源をみつめ直し、今後の未来を考えていくべきではないかと考えた。

展示協力いただいた岡田憲久氏は、工法庵・洞雲亭庭園、2号館中庭、25号館中庭の3つの庭園の作庭を手掛けられ、平成の初め頃より、本学の整備活動に実際に携わられた一人として、当時の状況を造園の立場から知る人物である。展示のなかでは、第一展示室において、岡田氏の記録資料から、各庭の制作過程を記録写真によって紹介いただくことで、活動に携わってこられた多くの先人たちの活動の様子をあらためて知る契機となった。

第二展示室では、本学の春日井キャンパスの、1960年代の校地取得時期の図面資料や、創立者の肉筆原稿をはじめとする大学開学時期の記念資料、さらに80年代から90年代にかけて行われたキャンパス整備計画の状況を航空写真や建築計画のための関連資料、当時の大学案内パンフレットを展示し、これまでのキャンパスの変遷を概観する内容にして紹介した。各資料については、学内の関係部署に情報提供の協力を得て陳列が適った。

あわせて、庭園とは、天候や地勢、植物といった生き物によって構成されている場所であるため、年月を経ることで景観が変わってしまうという難しさもある。例えば、樹木が生い茂り、鑑賞ポイントの景観が変化してしまう、木材の老朽化、敷石の亀裂や、コンクリート面の劣化や汚れなどに対し、新たな素材への入れ替えや、日々の清掃作業など、人の手による丁寧な維持管理が必要である。この点においても、2018年から2019年にかけて、本学では、岡田氏の協力のもと、3つの庭の改修整備を実施し、「保存」への意識を共有していくことの重要性を学んだ。（原田）

展示案内（上・第一展示室、下・第二展示室）

2019秋季企画展　展示室風景　　第一展示室風景

第二展示室風景

10月

秋季講演

2019秋季企画展関連講演「中部大学 3つの庭に込めた思い」

‖日時‖2019年10月29日（火）14：00～15：30
庭園見学会　15：30～16：30
‖会場‖中部大学附属三浦記念図書館 3階セミナールーム

題　目：「中部大学 3つの庭に込めた思い」
講　師：岡田 憲久 氏（作庭家、名古屋造形大学特任教授、景観設計室タブラ・ラサ主宰）
司　会：荒屋鋪 透（中部大学民族資料博物館長・人文学部教授）

参加者数：112人
庭園見学会：10月29日（56人）、11月26日（33人）
12月17日（22人）、1月14日（80人）

講演会の様子

庭園見学会の様子

2019秋季企画展会期中に、展示協力者の岡田憲久氏に本学の庭園の特徴と、制作過程の様子について、写真資料を交えながら講演いただいた。講演の終了後には、3つの庭を巡る見学会を開催し、ひきつづき、岡田氏に現地で解説いただいた。学内外から多くの方に参加いただいた点はこの分野への興味関心の高さをあらためて実感した。特に、ふだんは一般公開される機会が少ない、利休茶室の復元建築を備えた書院建築と、その庭園（工法庵・洞雲亭庭園）は、最も見学時間を割いたことからうかがえた。

その後、庭園見学会は会期中に3回開催し地域の一般の方の他に、造園に携わる研究者、および建築設計、またこの東海圏の石材や木工等の専門の方も数多く参加いただき、本学の庭をじっくり観察いただいた。工法庵・洞雲亭庭園は、ふだん一般公開はしていないこともあり、この機会を活用して訪問された方も少なくなかった。（原田）

10月

研修見学

JICA「産業技術教育」研修員の民族資料博物館見学について

‖日時‖2019年10月15日（火）、13：30～15：00
‖会場‖中部大学民族資料博物館　常設展示室

参加者数：15人
研修担当：宮川 秀俊（中部大学現代教育学部教授）
中部大学JICA研修支援室

JICA研修員の見学の様子

中部大学で受託している国際協力機構（JICA）課題別研修「産業技術教育」の第6回が10月15日から11月21日まで実施されました。今年も恒例通り、初日の開講式に引き続いて民族資料博物館を訪問しました。博物館見学は、中部大学の学術施設の一つとして紹介し、世界各国から来日しているJICA研修員にその存在を知っていただいています。図らずも、これまでの研修ではアフリカからの参加者が99名中49名と多く、また、博物館にはアフリカの展示物が多いこともあり、本学に親近感を持つ研修員も多いようです。

さて、毎日の研修後には研修員に当日の評価票（内容：印象、質問、提案等）を渡して、提出していただいています。博物館見学についても、研修員12ヶ国12名の評価票を収集し、英文を和訳して、次のような3つの観点からまとめました。（囲み）このように全研修員から好感の回答が得られており、6週間の研修のスタートの時期における博物館訪問の意義と成果が認められたように感じます。

このことが博物館理解と日本に滞在するにあたっての信頼感・安堵感につながればうれしく思います。（宮川）

○博物館（大学を含めて）の全般的な感想（4件）：

「中部大学キャンパスとその博物館を見せてもらえて良かったです。」（パレスチナ）、「博物館で様々な物（もの）を鑑賞できてとても良かったです。大学のキャンパスを見ることも。」（カンボジア）、「中部大学の多くのことに感動しました。」（ケニア）、「研修員たちは記念になった。」（リベリア）

○博物館の内容に係わる感想（6件）：

「博物館には他の国の文化がよく分かる展示がたくさんあった。」（マラウイ）、「博物館を訪れ、私は本当に楽しんで展示を鑑賞することができました。」（エチオピア）、「博物館は、異なる文化の情報を視覚的に得るのにとても有益であった。」（ジンバブエ）、「私がまだ出会ったことのなかったものを探究できてとても感動しました。」（ナイジェリア）、「収蔵品は学ぶ人に多くのモチベーションを与えてくれる。」（シエラレオネ）、「展示されていた革に芸術要素の深い洞察力（見識）があった。」（ボツワナ）

○博物館への希望（2件）：

「私が見た物（もの）全てにとても感動しました。そしていつか私の国の物を博物館に展示してもらいたい。」（モザンビーク）、「北アフリカ、特にモロッコのものをより多く展示してもらいたい。」（モロッコ）

11月

授業見学

CAAC講義　「旅と文学」
― 中部大学民族資料博物館への「たび」―

▎日時▎2019年11月1日（金）
▎会場▎中部大学民族資料博物館　体験実習室

授業担当：岡本 美和子（CAAC講義「旅と文学」非常勤講師・中部大学非常勤講師）
参加者数：9人

ＣＡＡＣ講義「旅と文学」の皆さんと共に、本学の博物館へ「たび」を始めて４年目になります。今年も岡本聡先生の『おくのほそ道』を引き継ぐ形で、『源氏物語』を読む中で、「源氏物語絵巻（柏木三）」《千村俊二作　現状再現模写　中部大学蔵》を訪ねました。原本の絵巻は徳川美術館で11月23日（土）から12月1日（日）まで公開されました。本学博物館所蔵の《千村俊二作　現状再現模写》は大変貴重なお宝で、それを近々と目の前で鑑賞できることはなんとも幸せなひと時です。本年度からは特別室に公開されるようになり、静かな空間でいつでも見られます。今年も原田千夏子学芸員の解説を受け、現代とは異なる色彩の魅力や絵画の技法等を学びました。遠くシルクロードを経て伝わった文化と日本の文化との融合が、さらに特色ある作品を生み出したことを実感できました。「現代の文化と比べ遜色がないのに驚きです」「その時代の人々の感性に感服いたしました」等の声が聞かれました。館内には他にも遠くアジアの国々からの品々が数多く展示されており、総合的な学習が可能です。

講義で学ぶ皆さんは人生経験豊富で深い理解力を身につけておられます。今から千年前に書かれた源氏物語を読み進むと、その遥かな時空を軽やかに超えてゆかれます。今年は絵巻を鑑賞しながら、併せて詞書を朗読しました。平安朝の人々が耳を傾けたように、もの語りを聞きながら絵巻を眺め味わう静謐な時が流れます。本学に博物館あってこその体験でした。「立派な資料館を見てびっくり、講義と結びついて、より親しみをもちましたし、知人にも話を広めたい」「私自身、現代手法での物作りの仕事をしておりますので自然を大切にし人間の身勝手な行いに、ブレーキをかける一人として生き抜きたいと思います」「専門の学芸員の方の説明を受けることができ良かったです」等の感想が寄せられました。

「旅と文学」の皆さんと見学した折は、2019秋季企画展　民族資料博物館「学校法人中部大学創立80周年記念　中部大学春日井キャンパスのはじまりと今　［初公開］創立者　三浦幸平先生　肉筆原稿」展が開催されていました。中部大学開学当初の図面も展示され、見るとそこに記された植樹予定の欅が、今は大樹となって博物館の前で豊かな枝を広げているではありませんか！歴史を身近に感じました。（岡本）

CAAC講義内の見学の様子

教育普及活動

授業見学にむけた体験実習室の活用
― 素材研究テーマ：日本の国宝絵画の模写作品紹介

2019年夏季より、体験実習室に図書および素材研究テーマの展示コーナーを新設

解説担当：原田 千夏子（中部大学民族資料博物館）

本学の社会人対象のカリキュラムコースの中で独自の講義を行うCAAC講義のうち、連続して行われる「源氏物語」に関する11月の授業（岡本美和子非常勤講師）において、当館で紹介している《源氏物語絵巻（柏木三）》（中部大学蔵）他の模写作品の解説を行った。

模写作品は、《源氏物語絵巻（柏木三）》の他に、《扇面古写経絵図》、《平治物語絵巻（六波羅御幸）》の計3点と、常設展示室には、《菩薩と天人たち》（バーミヤーン石窟寺院壁画一部模写）がある。現物の作品は、国立博物館の特別企画展で照明を暗く落とした空間で鑑賞することが多いが、こうした優れた模写作品を教育資料として活用することで、至近距離で肉筆の様子を観察することができる。

また、当館において、特別講座の指導講師で日本画家の下川辰彦氏に協力を得て制作した、日本画の天然顔料、染料の重ね塗りの効果を比較して観察するための実験パネルの一部もあわせて紹介した。また日本画の発達とともに日本独自で発展してきた天然の岩絵具の透明感と深みのある美しい色合いを少しでも体験していただければと思い、こうした機会を利用して紹介している。

その他、2019年8月より、館内の体験実習室の利用について、関連書籍コーナーと合わせて、当館の素材研究テーマに関連した収蔵資料を選別し一部を紹介する展示コーナーを設置した。主な内容は次のとおりである。

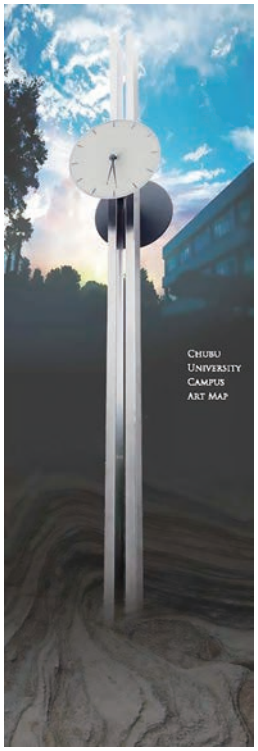
◇ 体験実習室にて閲覧できる主な内容

- **日本の伝統的な絵具について**
  （国宝絵画の模写作品、顔料・染料の重ね塗り表現効果、研究、色見本パネル）
  ※愛知県立芸術大学日本画研究室協力・担当 下川辰彦（中部大学民族資料博物館外部専門委員）
- **染料について**（インド更紗の伝統文様、型）
- **文様について**（中国少数民族の民族衣装にみる、吉祥文様）
- **関連書籍コーナー**（博物館活動における関連研究者、企画展の関連書籍等）
- **シルクロードイマジナリーデータベースの活用**　※国立情報学研究所協力
  （国立情報学研究所作成のシルクロード関連遺跡の画像と歴史マップの画像）
- **民族衣装の体験**
- **民族楽器の体験**

体験実習室の図書の閲覧コーナー

体験実習室の素材研究をテーマとした展示コーナー

中部大学キャンパス・アートマップ、2019年秋に完成



表紙イメージ

学校法人中部大学創立80周年記念に際して、キャンパス内のオープンスペース各所に設置している、主な絵画および彫刻作品を紹介するマップ冊子を2019年10月に作成しました。

建物と緑が共生するキャンパスの中で設置されている美術作品の作る美しい景観を散策する際にぜひお手にとってみてください。

中部大学キャンパス・アートマップ（右は目次ページ）

◇成果発表展

2019年度 特別講座（古典絵画）受講生作品展
「― 金屏風の小下図制作」

会　　期：2020年3月23日（月）～4月15日（水）
会　　場：中部大学民族資料博物館　多目的室、附属三浦記念図書館1階エントランス
※会期中に、指導講師による展示作品の講評会を開催予定。（4月9日14:00会場にて）

◇ 2020秋季企画展

2020年秋季企画展（予定）